

特

集

無人マルチローターによる病害虫防除

ドローンによる農薬散布の適用性に関する検討

一般社団法人 日本植物防疫協会 ふな き ゆう き
舟 木 勇 樹

はじめに

農薬散布はこれまで過酷な作業の一つとされてきたが、近年、農業分野における担い手が不足する中、今後活躍が期待される若者や女性の農業参入を促すためにも、農薬散布作業の改善に資するドローンや無人散布等の新しい施用技術の活用が重要である。

日本植物防疫協会は従前より農薬の省力的・効率的施用技術について重要課題として取り組んできている。しかし、昨今のめまぐるしく展開する諸情勢に鑑みて、本課題に対して関係者との協力のもと、幅広くかつ迅速に取り組む、共有する必要があると考えた。これらのことから、協会は新しい農薬施用技術の検討を行うことを目的として、農林水産省、農林水産消費安全技術センター、都道府県、農研機構、農薬会社、防除機会社およ

び関係団体等とともに「農薬の新施用技術検討協議会（以下「協議会）」を2021年度に設立した。本協議会の主要な柱の一つとして、ドローンによる農薬散布に関する検討に取り組んできた。今回はドローンによる農薬散布の適用性について紹介する。

I ドローン散布に適した登録農薬の現状

スマート農業の象徴といえるドローン散布（図-1）は、農林水産省がその活用を推し進め、その一環としてドローン散布で使用できる農薬登録を推進するために登録要件の一部（薬効・残留）が緩和された。それにより、2019年8月以降にドローン散布に適した農薬登録は急増し、増加した農薬と作物の組み合わせは683にのぼる。一方、ドローン散布による防除効果の確認試験を経ずに登録されているケースも多くあるため、ドローン散布の



図-1 ドローンによる農薬散布の様子

Study on the Applicability of Pesticide Spraying Using Drones.

By Yuki FUNAKI

（キーワード：ドローン散布，防除効果，散布水量）

注）本特集でのドローン，マルチローター，マルチコプター等の無人航空機は無人マルチローターを示す。